



クローズアップ
〜今を生きる 人こそが宝〜
第1回

Odashima Guitars 小田島尚人(おだしまなおと)さん
音への追求 北海道の木の価値をもっとあげたい

ギター製作家への道

初めてギターを手にしたのは高校1年生の冬。最初は趣味で弾いていたギターも、やがて既製品の出る音への疑問を感じ、自らがギター製作家になることを決意。国内のギタークラフト専門学校へ進学し、01年には単身アメリカ

に渡りギター製作家をめぐす。02年にはギター製作家トム・リベッキー氏に師事。ギター製作家としての道を着実に歩んできた。

和寒でのギター工房

これまでギターを製作してきた経験から針葉樹、広葉樹といった楽器に適した木が多

音へのこだわり

道産材であるエゾマツやカラマツ、イタヤカエデなどを組み合わせて作られるギターの音色は、やわらかみがあり、低音から高音までしっかり出て、それなりのポリウラムのあるいい音がでる。5年、10年と弾いているとどんな音が変わってきて、枯れたような甘い音に。年月が経つと変化していく木ならではの音に魅力を感じている。音への探求心を忘れることなく常に120%の力を自らのギター製作にそいでいるその姿は、夢と希望に満ちあふれている。

職人のよここび

アーチドトップと言われるギターはジャズやブルースな

どのジャンルに使われることが多く東京を拠点に活動を行っているBan Ban Bazarの富永氏をはじめ、多くのプロが愛用している。

将来の夢

小さいときから釣りが大好き。年々良い川がなくなってきている。木を使う仕事をしているため、森や山のことが気になる。そういった自然環境を守るためにもギターの売上の一部を植林活動に寄附。北海道の木の価値をもっと高めたい。自身の作成するギターが認められれば木の価値を高めることができる。今は林業の後継者がいなく、木を育てる人がいなくなっている。少しでも価値が上げれば林業を活性化できるかもしれない。そして、北海道の木でギターを作る仲間を増やし、200年後も自分の作ったギターの音色がどこかで響きわたっていることを夢見て…。



小田島 尚人さん[Odashima Guitars] 28歳
和寒町字西和506番地 0165-32-7710

出身：岩手県北上市。

経歴：1998年岩手県立黒沢尻工業高校卒業。2000年E S Pギタークラフトアカデミー卒業。

2001年ロバートペンギンギターフェア(アメリカ)留学。2002年ギター制作家トム・リベッキー氏に師事

趣味：フライフィッシング